



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

公共交通

交通手段 今後の展開は 持続可能な移動手段確保を

問 当町の公共交通のバスの便のうち、枝線に導入しているデマンドバスの状況は。

また、このデマンドバスやその他の交通手段の今後の展開は。



北郷地域～入野間で活躍中の
北郷加持エリアデマンドバス

答 西村企画調整室長

当町の公共交通は、平成22年に策定された黒潮町地域公共交通総合連携計画に基づき、将来にわたり持続可能な公共交通を目指して取り組んできました。これまでに北郷加持エリアおよびかきせエリアのデマンドカーや川奥佐賀線、いわゆる枝線など整備できたものもあるが、湊川地区や蜷川地区へのデマンドバス導入や入野地区の市街地交通については、運転手不足や事業所および地域等との調整等の課題により、未整備の状況。

また、今後の公共交通については、今年度新たに策定する地域公共交通計画に基づき、取り組みを進めることになる。この計画では、バスやタクシーといった既存の公共交通だけではなく、必要に応じてスクールバスや福祉輸送、病院などの民間事業者による送迎サービスといった地域の様々な移動手段について最大限活用する取り組みを盛り込むことで、持続可能な移動手段の確保が求められている。

整備の状況。

町づくり

平地区間を すべて高架に 盛土が基本 平地の高規格道

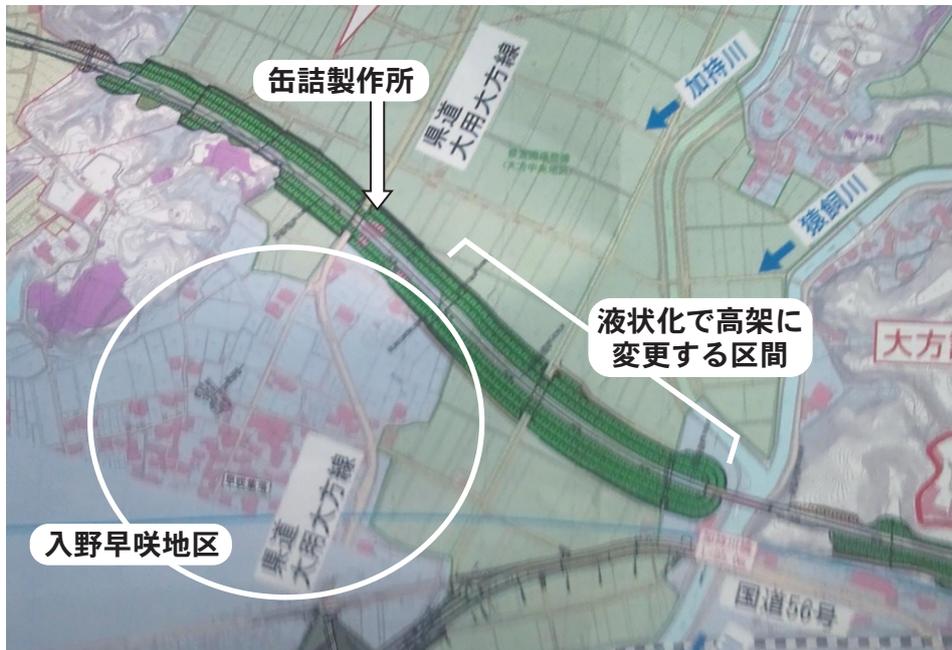
問

当町では、高規格道路の延伸に伴う残土を活用した本庁所東側への高台整備計画が進んでいる。先日、入野早咲地区にて、国土交通省より高規格道路の構造についての概要説明があった。

その中で、当地区山側の平地区間については、当初の盛土による整備計画を、缶詰製作所の東側から以東部分は地質により高架構造に変更するが、缶詰製作所の東側から西側の山手間は盛土計画のままとなっていた。

この状況下、平地区間を全て高架にすると、既存田畑の消失面積の大幅減少、また、景観も良くなる。更には、残土の有効活用で更なる高台整備計画が進むと考えるが、町の考えは。

平成29年当時の入野早咲地区周辺の高規格道路の計画図。橋を除く全区間が盛土計画（濃い緑色部）となっていたが、中央部から右下間が高架に変更された



答 松本町長

高規格道路の事業主体の国は、景観を憂慮して工事はしないという基本的な考え方を持っている。今回、国は盛土構造が基本の中、途中までは液状化のために高架となっていました。しかし、これによって町の景観が大きく損なわれるとは感じていない。